



## 平成25年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社フェヴリナホールディングス  
 コード番号 3726 URL <http://www.favorina-holdings.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 正英  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 本部長 (氏名) 堀川 大輔  
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

TEL 092-720-5460

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年9月期第1四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成24年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第1四半期	482	—	△91	—	△94	—	△547	—
24年9月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 25年9月期第1四半期 △547百万円 (—%) 24年9月期第1四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第1四半期	△959.87	—
24年9月期第1四半期	—	—

当社は、平成24年9月期の期末より連結財務諸表を作成しているため、平成24年9月期第1四半期の記載及びこれに係る対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年9月期第1四半期	1,842	484	25.3	849.65
24年9月期	1,369	909	64.9	1,933.01

(参考) 自己資本 25年9月期第1四半期 466百万円 24年9月期 888百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	—	—	0.00	0.00
25年9月期	—	—	—	—	—
25年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月期の配当予想につきましては未定です。

### 3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,100	50.3	△120	—	△125	—	△580	—	△1,016.15
通期	2,400	—	△85	—	△100	—	△560	—	△981.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、本日(平成25年2月13日)公表しております。「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。なお、平成24年9月期は、決算期変更により6ヶ月の変則決算であったため、通期の対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 2社 (社名) 株式会社ソフトエナジーホールディングス、株式会社ソフトエナジーコントロールズ、除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期1Q	580,867 株	24年9月期	469,866 株
② 期末自己株式数	25年9月期1Q	10,088 株	24年9月期	10,083 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期1Q	570,779 株	24年9月期1Q	459,783 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社が本資料の発表日現在で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、当社の事業を取り巻く経済情勢、市場動向等に関する様々な要因により、記述されている業績予想とは異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景に緩やかな回復の動きがみられるものの、欧州や中国等の海外経済を巡る不確実性の高まりと、近隣諸国との領土問題による景気の減速など、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと当社におきましては、平成24年7月1日より持株会社へと移行し、平成24年10月1日には株式会社ソフトエナジーホールディングスと経営統合を行い、「時代の潮流を見据えた事業展開」という創業時の発想に立ち戻り、既存事業であります化粧品及び健康食品等の通信販売業をコア事業としつつも、今後大きな成長が期待できる新しい充放電検査装置におけるエンジニアリング事業に参入いたしました。

しかし、当該事業に関しましては、領土問題による日中・日韓関係の悪化、中国経済の景気の減速等により、受注金額の大きい中国・韓国向けの量産設備への投資時期が大幅にずれ込んでいること、また、電気自動車（EV）市場におきまして、「販売価格が高いこと、走行距離が短いこと」等の理由から、当初予想よりも市場の伸びがよいくないことで、収益状況が著しく悪化いたしました。

そこで、当該状況に対応するため、全面的な経営計画の見直しを行い、事業の「選択と集中」を図り、採算性を重視するという観点で大幅な事業整理・リストラ策を講じました。

今後、クリーンエネルギー需要の拡大とそれに伴う蓄電池市場の拡大は予想しておりますが、「機械機器製造事業」の収益改善には時間を要すると判断したため、会計監査人と協議のもと当第1四半期連結累計期間において、のれんの減損処理を実施いたしました。これは予め厳格な会計処理を実施することで財務体質の健全性を確保するためであり、株式会社ソフトエナジーホールディングス及びその子会社の当社グループ参画は、当社グループの永続的な成長や長期的な成長ビジョン実現のためには必要不可欠なものであると判断しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高482,491千円となり、営業損失91,986千円、経常損失94,397千円、四半期純損失547,876千円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①コミュニケーション・セールス事業

新規顧客層の拡大に関しましては、前連結会計年度に引き続き新商品を導入し、積極的に顧客獲得の間口を広げてまいりました。10月に高ライフ・タイム・バリューが見込まれる新商品「羊バラセンタ」（健康食品）を、11月に美意識の高い顧客向けの中価格帯新商品「ナノアクア フェイスマスク」（美白パック）を新たに販売いたしました。

次に、既存顧客層の確保に関しましては、引き続きカスタマーフレンドの対応スキルアップに注力し、リピート率の向上を図ってまいりました。また、WEB販売施策に関しましては、サイトコンテンツの充実に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は366,091千円となりました。また、利益面につきましては、広告宣伝の効率化、人件費の削減等の合理化策が功を奏し、セグメント利益3,860千円の黒字化を達成いたしました。引き続き事業基盤の安定と収益性の向上を図り、黒字体質の定着化に努めてまいります。

#### ②機械機器製造事業

充放電検査装置に関しましては、近隣諸国との領土問題による景気の減速や大型リチウムイオン電池が最も利用される電気自動車（EV）の普及の遅れなどにより、顧客企業の設備投資は不透明な状況が続いております。

次に、電源基盤の製作に関しましては、既存機種種の制御機器及び電源機器類において、概ね横ばいで推移しております。また、当第1四半期連結累計期間において、2月以降販売を開始いたしますエネルギー管理システム（BEMS・HEMS）機器の生産を開始したことから、当該製品に係る仕入等が先行している状態です。

この厳しい経営環境に対応するため、大幅な経費削減を行いました。売上高の減少をカバーすることができず、売上高116,399千円、セグメント損失93,219千円となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は1,842,554千円（前連結会計年度末1,369,100千円）、その内訳は流動資産1,631,210千円、固定資産211,343千円となり、前連結会計年度末に比べ473,453千円増加いたしました。これは主に、株式会社ソフトエナジーホールディングスとの株式交換による連結範囲の変更に伴う増加であり、現金及び預金の増加188,178千円、受取手形及び売掛金の増加57,726千円、商品及び製品の増加53,412千円、仕掛品の増加193,081千円、原材料及び貯蔵品の増加188,750千円、長期貸付金の減少200,284千円によるものであります。

### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は1,357,586千円（前連結会計年度末459,317千円）、その内訳は流動負債1,046,858千円、固定負債310,727千円となり、前連結会計年度末に比べ898,268千円増加いたしました。これは主に、株式会社ソフトエナジーホールディングスとの株式交換による連結範囲の変更に伴う増加であり、買掛金の増加191,211千円、短期借入金の増加287,900千円、1年内返済予定の長期借入金の増加51,252千円、長期借入金の増加210,311千円によるものであります。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は484,967千円（前連結会計年度末909,782千円）となり、424,815千円減少いたしました。これは主に、株式会社ソフトエナジーホールディングスとの株式交換による資本剰余金の増加125,431千円と四半期純損失547,876千円を計上したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年9月期の連結業績予想につきまして、平成24年11月9日に公表いたしました連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（平成25年2月13日）公表しております、「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成24年10月1日に行われた株式交換により子会社となった3社（株式会社ソフトエナジーホールディングス、株式会社ソフトエナジーコントロールズ及び株式会社エコロニウム）を連結の範囲に含めております。

なお、ふくしまEVバス製造株式会社は、休眠会社であり、重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、平成24年10月1日を効力発生日として株式会社ソフトエナジーホールディングスと経営統合を実施いたしました。しかし、当社グループは、前連結会計年度まで2期連続の営業損失、経常損失及び当期純損失を計上しており、当第1四半期累計期間においても営業損失、経常損失及び四半期純損失を計上しております。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善するため、以下の施策に取り組んでおります。

- (1) 株式会社フェヴリナにおいては、中期事業計画を策定し、営業力の強化による売上の回復を目指しております。中期事業計画の主な内容は以下のとおりです。
  - a. 販売チャネルの増加やWEBマーケティング強化などによる新規顧客の拡大
  - b. 顧客ターゲット層を明確化した広告宣伝の実施
  - c. カスタマーフレンド（販売担当者）の増加
  - d. 紙媒体の宣伝の拡大やWEB売上割合増加による広告宣伝費の削減
- (2) 経営統合を実施した株式会社ソフトエナジーコントロールズ、株式会社エコロニュームにおいては、営業力強化による売上回復を図るとともに、リストラを実施し損益改善に努めております。

当第1四半期累計期間では、既に株式会社フェヴリナにおける新商品投入や販促活動の効率化、株式会社ソフトエナジーコントロールズにおけるリストラによる費用削減等の対応策を講じています。これらの対応策により損益は改善しており、向こう1年間において資金不足となる可能性は低いと判断しています。

しかしながら、株式会社フェヴリナをとりまく環境は、化粧品通販市場がほぼ成熟しているなか、他業種からの新規参入や商品の低価格化が続くなど、依然として厳しい状況にあります。また、主力商品のジェルパックについて旧仕入先より販売差し止めの仮処分申請がなされていますが、仮に販売差し止めとなった場合、業績・資金繰りが大幅に悪化する可能性があります。さらに、経営統合を実施した株式会社ソフトエナジーホールディングスは、リチウムイオン電池に係る充放電検査装置におけるエンジニアリング事業を主要な事業としており、今後大きな成長が期待できる分野ではありますが、海外企業との価格競争、新エネルギーの台頭による急激な受注減など経営環境が激変する可能性があります。このため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	674,522	862,700
受取手形及び売掛金	86,737	144,464
商品及び製品	147,186	200,598
仕掛品	—	193,081
原材料及び貯蔵品	1,623	190,374
その他	77,439	40,289
貸倒引当金	△274	△297
流動資産合計	987,235	1,631,210
固定資産		
有形固定資産	81,605	100,768
無形固定資産	51,544	47,900
投資その他の資産	248,715	62,673
固定資産合計	381,865	211,343
資産合計	1,369,100	1,842,554
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	39,127	230,338
短期借入金	150,000	437,900
1年内返済予定の長期借入金	22,140	73,392
未払法人税等	3,429	2,204
賞与引当金	14,915	3,546
返品調整引当金	948	1,675
その他	128,391	297,801
流動負債合計	358,952	1,046,858
固定負債		
長期借入金	73,881	284,192
資産除去債務	21,945	22,005
その他	4,539	4,530
固定負債合計	100,365	310,727
負債合計	459,317	1,357,586
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	882,788	882,788
資本剰余金	—	125,431
利益剰余金	34,604	△513,271
自己株式	△28,628	△28,633
株主資本合計	888,765	466,314
新株予約権	21,017	18,652
純資産合計	909,782	484,967
負債純資産合計	1,369,100	1,842,554

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	482,491
売上原価	194,185
売上総利益	288,306
返品調整引当金戻入額	948
返品調整引当金繰入額	1,675
差引売上総利益	287,579
販売費及び一般管理費	379,565
営業損失(△)	△91,986
営業外収益	
受取利息	10
為替差益	238
貸倒引当金戻入額	590
その他	117
営業外収益合計	956
営業外費用	
支払利息	2,978
その他	389
営業外費用合計	3,367
経常損失(△)	△94,397
特別利益	
新株予約権戻入益	2,364
特別利益合計	2,364
特別損失	
減損損失	455,561
関係会社株式評価損	3,031
特別損失合計	458,592
税金等調整前四半期純損失(△)	△550,625
法人税、住民税及び事業税	716
法人税等還付税額	△3,266
法人税等調整額	△199
法人税等合計	△2,749
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△547,876
四半期純損失(△)	△547,876

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△547,876
四半期包括利益	△547,876
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△547,876
少数株主に係る四半期包括利益	—

### (3) 継続企業の前提に関する注記

当社は、平成24年10月1日を効力発生日として株式会社ソフトエナジーホールディングスと経営統合を実施いたしました。しかし、当社グループは、前連結会計年度まで2期連続の営業損失、経常損失及び当期純損失を計上しており、当第1四半期連結累計期間においても営業損失、経常損失及び四半期純損失を計上しております。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善するため、以下の施策に取り組んでおります。

- ① 株式会社フェヴリナにおいては、中期事業計画を策定し、営業力の強化による売上の回復を目指しております。中期事業計画の主な内容は以下のとおりです。
  - a. 販売チャネルの増加やWEBマーケティング強化などによる新規顧客の拡大
  - b. 顧客ターゲット層を明確化した広告宣伝の実施
  - c. カスタマーフレンド（販売担当者）の増加
  - d. 紙媒体の宣伝の拡大やWEB売上割合増加による広告宣伝費の削減
- ② 経営統合を実施した株式会社ソフトエナジーコントロールズ、株式会社エコロニウムにおいては、営業力強化による売上回復を図るとともに、リストラを実施し損益改善に努めております。

当第1四半期連結累計期間では、既に株式会社フェヴリナにおける新商品投入や販促活動の効率化、株式会社ソフトエナジーコントロールズにおけるリストラによる費用削減等の対応策を講じております。これらの対応策により損益は改善しており、向こう1年間において資金不足となる可能性は低いと判断しております。

しかしながら、株式会社フェヴリナをとりまく環境は、化粧品通販市場がほぼ成熟しているなか、他業種からの新規参入や商品の低価格化が続くなど、依然として厳しい状況にあります。また、主力商品のジェルパックについて旧仕入先より販売差し止めの仮処分申請がなされていますが、仮に販売差し止めとなった場合、業績・資金繰りが大幅に悪化する可能性があります。さらに、経営統合を実施した株式会社ソフトエナジーホールディングスは、リチウムイオン電池に係る充放電検査装置におけるエンジニアリング事業を主要な事業としており、今後大きな成長が期待できる分野ではありますが、海外企業との価格競争、新エネルギーの台頭による急激な受注減など経営環境が激変する可能性があります。このため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年10月1日付で当社を株式交換完全親会社とし、株式会社ソフトエナジーホールディングスを株式交換完全子会社とする株式交換を実施いたしました。そのため、当第1四半期連結会計期間において資本剰余金が125,431千円、自己株式が5千円増加し、また、当第1四半期連結累計期間において547,876千円の四半期純損失を計上いたしました。この結果、当第1四半期連結会計期間末において資本剰余金が125,431千円、自己株式が△28,633千円、利益剰余金が△513,271千円となっております。

(5) セグメント情報等

当第1四半期連結累計期間（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）

1. 報告セグメントの概要

当社グループの事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、株式会社ソフトエナジーホールディングス及びその子会社2社を連結の範囲に含めたことに伴い、「コミュニケーション・セールス事業」及び「機械機器製造事業」の2つを報告セグメントとしております。

「コミュニケーション・セールス事業」では、化粧品及び健康食品の通信販売を主な事業としております。

「機械機器製造事業」では、充放電検査装置におけるエンジニアリング事業を主な事業としております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コミュニケーション・ セールス事業	機械機器 製造事業	計		
売上高					
外部顧客への 売上高	366,091	116,399	482,491	—	482,491
セグメント利益 又は損失 (△)	3,860	△93,219	△89,359	△2,627	△91,986

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額は、持株会社である当社に対する経営指導料支払額の消去が23,400千円、全社費用が△26,027千円含まれております。なお、全社費用は事業セグメントに帰属しない持株会社運営にかかる費用であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 前連結会計年度の末日に比して、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントごとの資産の金額が著しく変動しております。これは、平成24年10月1日付けで株式会社ソフトエナジーホールディングス及びその子会社2社を連結の範囲に含めたことに伴い、株式会社ソフトエナジーホールディングス及びその子会社2社の資産を報告セグメント「機械機器製造事業」に計上したことによるものです。連結子会社化による「機械機器製造事業」の資産の増加額は715,756千円であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失及びのれんの金額の重要な変動)

「機械機器製造事業」セグメントにおいて、株式会社ソフトエナジーホールディングスを完全子会社化した際にのれんが479,538千円生じましたが、買収評価時に想定していた超過収益力が見込めなくなったことから、当第1四半期連結累計期間において、減損損失を認識しております。なお、当該事象によるのれんの減損処理額は、当第1四半期連結累計期間においては455,561千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。